

製品名: UBE2D2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19520**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	17kDa

抗原情報

遺伝子名	UBE2D2 UBE2D2; UBC4; UBC5B; UBCH4; UBCH5B; Ubiquitin-conjugating enzyme E2 D2; Ubiquitin carrier protein D2; Ubiquitin-conjugating enzyme E2(17)KB 2; Ubiquitin-conjugating enzyme E2-17 kDa 2; Ubiquitin-protein ligase D2
別名	
遺伝子 ID	7322.0
SwissProt ID	P62837
免疫原	抗血清はヒト UBE2D2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 98-147

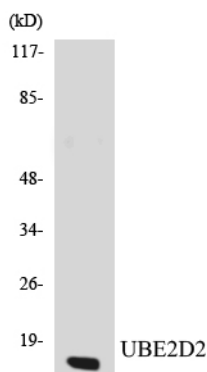
背景

真核生物におけるミスフォールド、損傷、あるいは短寿命タンパク質の制御された分解は、ユビキチン (Ub) -プロテアソームシステム (UPS) を介して行われます。UPS システムの不可欠な要素は、標的タンパク質のユビキチン化と、Ub 含有タンパク質の共有結合によるポリマー鎖の形成です。これにより、標的タンパク質は 26S プロテアソームを介した分解の標的となります。タンパク質のユビキチン化は、E1 (ユビキチン活性化)、E2 (ユビキチン結合)、E3 (ユビキチンリガーゼ) 酵素を含む一連の酵素カスケードによって媒介されます。この遺伝子は E2 酵素ファミリーのメンバーをコードしています。この酵素の基質には、腫瘍抑制タンパク質 p53 とペルオキシソーム生合成因子 5 (PEX5) が含まれます。選択的スプライシングにより、この遺伝子には複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013 年 5 月],触媒活性: ATP + ユビキチン + タンパク質リジン = AMP + ニリン酸 + タンパク質 N-ユビキチルリジン。機能: ユビキチンの他のタンパク質への共有結合を触媒する。短寿命タンパク質および異常タンパク質の選択的分解を媒介する。p53/TP53 の E6/E6-AP 誘導ユビキチン化に機能する。経路: タンパク質修飾; タンパク質ユビキチン化。類似性: ユビキチン結合酵素ファミリーに属する。サブユニット: SCF (SKP1-CUL1-F-box タンパク質) E3 ユビキチンリガーゼ複合体および E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼ PJA2 と相互作用する。、

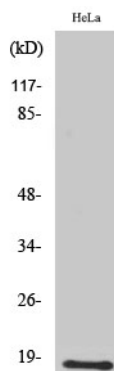
研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解;

画像データ



UBE2D2 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



UBE2D2 ポリクローナル抗体を 1: 2000 に希釈し、様々な細胞をウェスタンブロット解析した。二次抗体は 1: 20000 に希釈した。